

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme PRESS

[エクストリームプレス] by AJPS

Vol.14
2015 SPRING



色

— i r o —

FREE

ご自由に
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス
Extreme PRESS
[エクストリームプレス] by AJPS

Vol.14
2015 SPRING



[Cover Photo]
岸本 勉=写真 Photo by Tsutomu Kishimoto
男子棒高跳びは6メートル超を跳ばなければ勝負にならない。助走をつけて、ポールを突き刺し、身体を折り曲げバーを超える。そのすべてが完璧にこなせて初めて「鳥人」となるのだ。
2014.7.26 陸上 男子棒高跳び
Nikon D4s AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II
1/2000 F8 ISO200 ホワイトバランス オート
サンディスクエクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード 32GB

www.ajps.jp

Publishing / AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)
Publisher / Akito Mizutani
Producer / Yoshiyuki Osumi
Planning Manager / Rimako Takeuchi · Takahito Mizutani
Editor in Chief / Masashi Adachi
Editor / Noriko Hayakusa · Tsutomu Takasu · Tomohiro Watanabe
Yusuke Nakanishi · Hideyuki Imai · Kenji Yuasa
Design / Atelier[ar] Rika Ito
Printing / Hankyu Co.,Ltd

特別協力 : ターキッシュエアラインズ bjリーグ
<http://www.bj-league.com>
福田ボクシングジム
<http://www.boxers.jp>
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ)
<http://www.jleague.jp>

CONTENTS

色—iro—

巻頭エッセイ Vol.14 「ド真ん中を射貫いた絵、瞬間」
杉山茂樹=文 Text by Shigeki Sugiyama

Moments

岸本 勉=写真 Photo by Tsutomu Kishimoto
高須 力=写真 Photo by Tsutomu Takasu
中西祐介=写真 Photo by Yusuke Nakanishi
清水和良=写真 Photo by Kazuyoshi Shimizu
水谷たかひと=写真 Photo by Takahito Mizutani

Close Up

白井健三 Kenzo Shirai

〔第44・45回世界体操選手権大会代表選手〕

「いまは結果よりも内容…
ミスがあつたら勝っても嬉しくない」

渡辺達也=文 Text by Tatsuya Watanabe
藤田孝夫=写真 Photo by Takao Fujita

Impression

「再演のない、果てしなく続く物語を追いかけて」

熱田 譲 [クロノ・グラフィックス]=写真
Photo by Mamoru Atsuta [Chrono Graphics]
尾張正博=文 Text by Masahiro Owari

Moments
色
— iro —

「ド真ん中を射貫いた絵、瞬間」

杉山茂樹

普段、私たちが目にするカラー写真は複数の色彩の掛け合わせ（商業印刷の場合はシアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）で表現される。これに対し、白から黒までの連続階調で表現されるモノクロ写真。「彩り」をそこに見つけることはできない。しかし、ここに掲載されているビジュアルは濃密だ。貧しさを感じることはない。

むしろ新鮮。カラー写真では気付かなかったものが突如、浮き彫りになる。こちらの想像力は、色の情報量が少ないので、無意識のうちに刺激を受ける。人間の持つ潜在能力が稼働する瞬間と言っていいかもしれない。

雑念に襲われることがない世界。雑音のない世界。無駄な音はいっさい聞こえてこない。激しいアクションにもかかわらず、時間は止まっている。そんな感じだ。

映画館の闇の中に、ひとり身を置いた気分と似ている。どこか遠くの世界で起きた出来事。非現実的、非日常的なものにも見える。

選手の鋭く光るまなざしに、涙はない。その盛り上がった筋肉に、汗の臭いはしない。無機質。クール。戦慄に近い緊張さえも走る。ドラマ性にもあふれている。エッジの利いたキレ味鋭いワンショット。無用な装飾をいっさい省いた、非テレビ的と言いたくなるビジュアルに、思いっきりホッとする。

スポーツ度 100%。

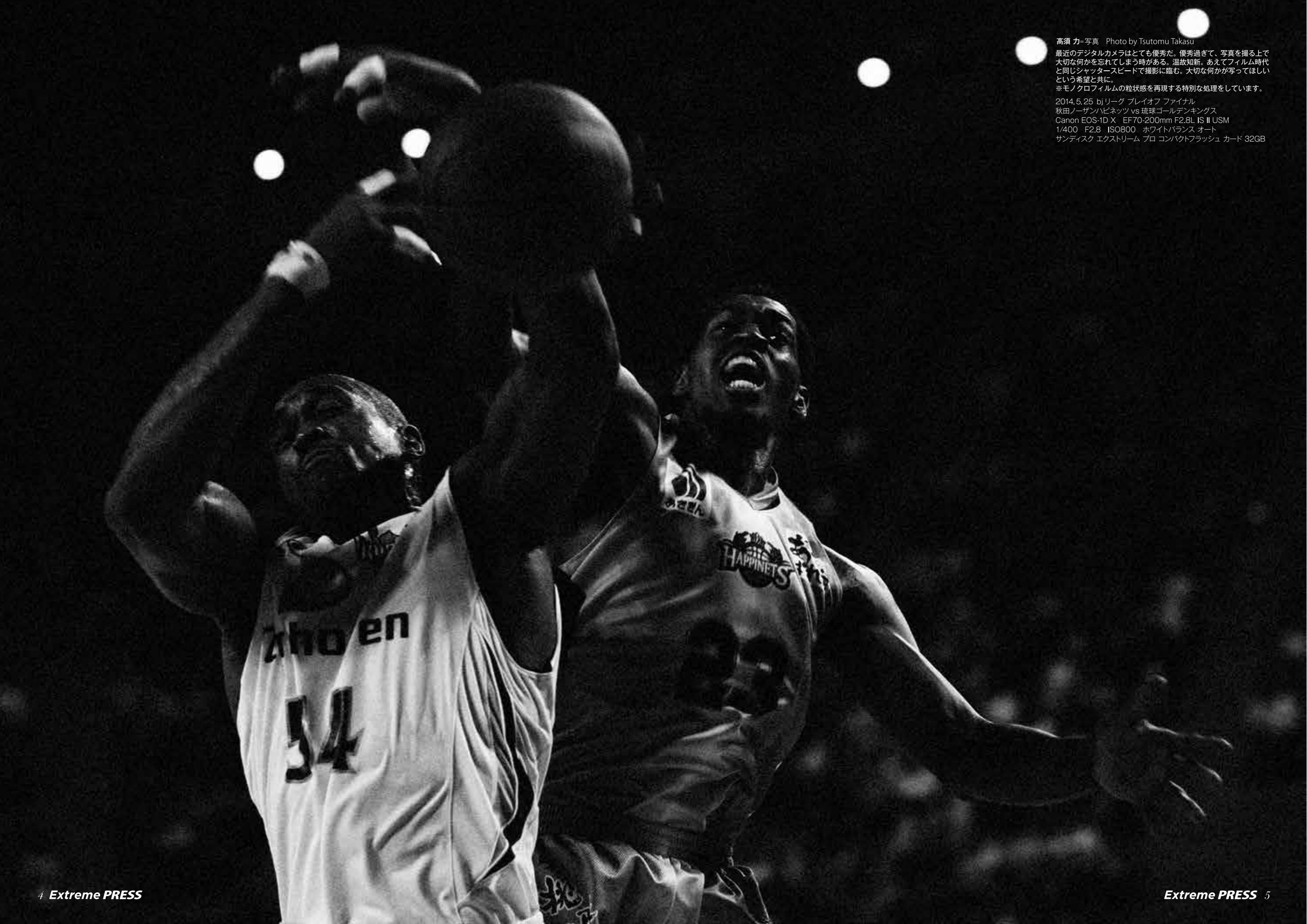
スポーツの定義、どちら方はさまざまだが、ここに掲載されたモノクロ写真は、そのド真ん中を射貫いた絵、瞬間に見える。



岸本 勉=写真 Photo by Tsutomu Kishimoto

助走のスピードが鍵を握るこの競技。
撮影地 アメリカの雄大な空のもとダイナミックなジャンプが美しかった。
2014.7.24 陸上 男子走り幅跳び
Nikon D4s AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED
1/5000 F5.6 ISO400 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード 32GB

高須 力=写真 Photo by Tsutomu Takasu
最近のデジタルカメラはとても優秀だ。優秀過ぎて、写真を撮る上で大切な何かを忘れてしまう時がある。温故知新。あえてフィルム時代と同じシャッタースピードで撮影に臨む。大切な何かが写ってほしいという希望と共に。
※モノクロフィルムの粒状感を再現する特別な処理をしています。
2014.5.25 bjリーグ ブレイオフ ファイナル
秋田ノーザンハピネッツ vs 琉球ゴールデンキングス
Canon EOS-1D X EF70-200mm F2.8L IS II USM
1/400 F2.8 ISO800 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB



中西祐介=写真 Photo by Yusuke Nakanishi
試合前、ひっそりと息を潜めて勝利を想像する。
それはボクサーにとって聖域ともいえる時間だ。
光に包まれるリングはもうそこまで来ている。

2013.9.2 プロボクシング フェザー級 6回戦
(撮影協力 福田ボクシングジム)
Canon EOS-1D X EF50mm F1.4 USM
1/400 F2.8 ISO3200 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 64GB



清水和良-写真 Photo by Kazuyoshi Shimizu
朝から降り続いた雨は、試合が始まてもやむことはなかった。
激しくボールを奪い合う、一对一のぶつかり合い。
水しぶきの中に浮かび上がる「雨中の激闘」の一瞬を切り取った。

2014.10.5 Jリーグディビジョン1第27節
浦和レッズ vs 徳島ヴォルティス
Nikon D4s AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR II
1/2000 F4 ISO4000 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB





水谷たかひと写真 Photo by Takahito Mizutani

競技スキーではなく、フリースキーの撮影は撮る側と撮られる側が協力しなければならない。どの斜面を、どのシルエットで滑るのか。どの光で、どのタイミングでシャッターを切るのか。そんな中で生まれた作品は、互いのセンスが合致したものなのである。

2014.1.31

Canon EOS-1D X EF300mm F2.8L IS II USM

1/5000 F4.5 ISO50 ホワイトバランス オート

サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB

Close Up 「いまは結果よりも内容ミスがあつたら勝っても

白井 健三

[第44・45回世界体操選手権大会代表選手]



2013年10月。ベルギーのアントワープで開かれた世界選手権。種目別ゆかで日本体操史上最年少の17歳で金メダルを獲得した白井健三は、一躍、世界中から注目を浴びるようになつた。それ以上にインパクトを与えたのはシライ(ゆかの後方伸身宙返り4回ひねり)、シライ(ゆかの前方伸身宙返り3回ひねり)、シライ/キムヒフン(跳馬の伸身ユルチェンコ3回ひねり)と、ゆかと跳馬で成功させた世界初の新技に白井自身の名前が付いたことだ。

— 金メダルを獲得し、周りから注目されて環境が変わったと思いますが、ご自身の中で変化はありますか?

白井 周りの反応とはギャップがありましたね。今までやってきた内容だったので、自分ではそんなに騒ぐことだとは思っていませんでした。みんなは“凄い”と言ってくれますが、優勝したからといってそんなに凄いことだとも思っていませんでした。自分は、もっともっと上を目指したいなど、そればかり考えていました。

— 白井選手ご自身は、変わっていないということですか?

白井 僕自身は何も変わっていません。ただこういう取材が増えたことで、はっきりと答えられるようになりました。以前は、例えば「これとこれ、どっちが良いですか」と聞かれたら、「どっちでもいい」と答えるようなタイプだったんです。それから、インタビューで初めて聞く言葉があるので、その言葉の意味やどういうときに使うのかを調べ、自分でも使えるようにして

「壁を乗り越えていくためには、人の意見を聞きながら、自分自身で考え、工夫をすることが大事だ…」その言葉からは、強烈な意志と自信があふれ出る。基本的には個人競技である体操。歴代最年少で世界選手権の金メダリストに輝いた18歳の若者は、その深層にあるべき重要な心理ベースを既に備えている。2016年リオ。そして2020年の東京。いまから彼の活躍が目に見えるようだ。

…… 嬉しくない」

渡辺達也=文

藤田孝夫=写真

Text by Tatsuya Watanabe

Photo by Takao Fujita



います。質問に対して「わからないです」とは言わずに、自分の意見をハッキリと伝えられるようになりました。

— 体操の技に自分の名前“シライ”が付いたことは、どう考えていますか?

白井 普段自分が普通にやっている技ですから、名前が付いたから……なに?という感じです。あまり興味がないです。ゆかで自分の名前が付いている技がふたつあるじゃないですか。パッとと言われても、どっちがどっちか今でもわからないくらいですから。

— 4回ひねりが注目されていますが、そのきっかけとなったのは?

白井 中学のときですね。体重が軽かったので高さのある宙返りができなくて。だったら横のひねりの方が、短い滞空時間の中で自分の感覚を活かせるかなと思ったんです。でも当時はそんなに深くは考えていないかったですね。先生に「やってみろ」と言われて始めただけなんです。

— 将来、5回転、6回転という技は可能ですか?

白井 みなさんそう言いますけど、4回転半が限界だと思います。挑戦してみようとは思いますが、今の僕の体重と足の力では無理ですね。

— 白井選手から見た体操の魅力はどういうところですか?

白井 男子の場合、6個の器具があって6種目ありますけど、それぞれにいろんな技があり、初めて見る人でも、体操を知らない人でも、ひと目見ただけで感動できるのが体操の魅力じゃないかなと思いますね。

— 体操を見ていると、普通の人には絶対に相似できかないなと思います。それが大きな魅力ということですね?

白井 他のスポーツはある程度ルールを理解した上で見て、凄いなあって感じると思うんです。でも体操は、ルールを知らないても“凄い”

ってわかるスポーツじゃないかな。

— 白井選手は、内容と結果、どちらを重視しますか?

白井 内容ですね。失敗して優勝しても全然嬉しくないんです。逆に自分が完璧な演技ができるば、2番でもそんなに悔しくないです。2番になってしまふのは自分に実力がないということですから。今できる最高の演技をしてそれで優勝できなかつたら、それはしょうがないと思っています。

— ライバルは誰ですか?

白井 基本的にいません。みんな仲間だと思っています。僕らの世代は良い選手が揃っていて、僕より上手い部分もあれば僕の方が上手い部分もあります。そこはお互いに教え合っていけばいいと思うので、ライバルというピリピリした関係じゃなくとも良いと思っています。

— ライバルは自分自身ということですか?

白井 練習を積んでいる自分を知っているのは自分しかいないし、自分を信じられるのは自分だけだと思いますので、自分自身は味方ですね。う~ん、ライバルは器具かもしれませんね。

— 白井選手にとって内村航平選手はどういう存在ですか?

白井 師匠であり、兄貴分です。まだまだ僕が弟子になり切れていない部分もありますけど、もっと航平さんの良いところを見習って、アドバイスもして欲しいので、今年も代表に選ばれて、航平さんのいろんなところを学ばないといけないですね。

— 師匠ということは目標の選手でもあるということですね?

白井 到底及ばない目標ですけど、「夢は?」と聞かれたら、「航平さんになることです」と答えることにしておきます。

— では将来どんな体操選手になりたいですか?

白井 航平さんです。オールラウンダーで、日本のエースと呼ばれ、日本人らしい体操をするのが航平さんですから、バッカリ僕の理想像ですね。

— 今年はグラスゴーで世界選手権があります。昨年、中国での南寧の世界選手権では、ゆかで2位、団体も中国に敗れて2位でしたが。

白井 団体戦で負けたのは悔しかったですね。6人で戦うので種目別に比べて悔しさが6倍あるわけじゃないですか。しかも祈りながら他の選手の演技を見守って、最後は日本の演技がすべて終わってから、中国の演技を見なければいけない。普段使わない神経を使って、団体戦はこんなに疲れるのかと思いました。そんな中、(加藤)凌平さんや航平さんは5種目にも出場しているので、改めて凄さを感じました。あの悔しさを知っている6人で、今年のグラスゴーで再チャレンジしたいです。

— 最後に、これから目標はどういうことですか?

白井 今年から大学生(日体大)になるので、環境が大きく変わるとと思いますが、またここで強くなつたなと言われるようになりたいですね。大きな目標はオリンピックと答したいんですけど、オリンピックばかり見ていると足元をすぐわるので、まず今年の世界選手権の代表に選ばれて団体戦でリベンジすることが大きな目標です。

白井 健三 ●しらい けんぞう

1996年8月24日、神奈川県生まれ。両親が設立した鶴見ジュニア体操クラブで3歳から本格的に体操競技に取り組みはじめる。その後めきめき頭角を現し、2012年には中国福建省で開催されたアジア体操競技選手権のゆかで優勝する。つづく2013年には、ベルギー、アントワープで行われた世界選手権のゆかで、日本体操史上最年少の17歳で金メダルに輝く。4月より日体大に進学。鶴見ジュニア体操クラブ(岸根高校)所属。



Impression

プロカメラマンが選ぶ
〈サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード〉

「再演のない、果てしなく続く物語を

熱田 譲 [クロノ・グラフィックス]=写真／尾張正博=文 Photo by Mamoru Atsuta[Chrono Graphics]／Text by Masahiro Owari

圧倒的なスピードを捉える

現在、日本人としてただひとりF1世界選手権(GP/グランプリ)を全戦取材しているグランプリフォトグラファーの熱田謙。F1がほかのスポーツと明らかに違うのは、被写体が動く圧倒的なスピードである。2014年のイタリアGPが開催された超高速コースのモンツアでは、F1マシンの最高速度は時速360km以上にも達した。秒速に換算すると1秒間に100mのスピードである。そんな怪物マシンをコースサイドから撮影する熱田だが、撮影そのものはそれほど難易度は高くはないという。

「確かに、私がモータースポーツの撮影を始めた

ころはまだデジカメはなかったし、ピントも手動で合わせていたので、ある程度の技量が必要だった。でも、最近のカメラはオートフォーカスの精度も、そして速度も上がったし、記録メディアであるコンパクトフラッシュへの書き込みスピードも飛躍的に向上したので、以前ほど技術的には撮影そのものに関して難しくなくなった」

だからといってF1の撮影が簡単になったかといふと、そんなことはない。なぜなら、いくらコンパクトフラッシュの容量が大きくなつて思う存分シャッターが切れるようになったとはいっても、広いサーキットで起きていることを1人すべて写真に収めることは不可能だからである。全長約5kmのサーキットで開催されるF1GPの撮影では、

どのタイミングでどこにいてそして何を撮影するのかが、ほかのスポーツにも増して問われる所以である。だから熱田はレース前夜になると、「翌日のレースでどのように移動して何を撮影するか」を、いつもベッドの中で何度もシミュレーションするのだという。

最後の戦いを覚悟して

一葉の写真にはカメラマンによって収められた瞬間が映し出されているが、被写体がその場所にたどり着くまでにはさまざまなストーリーがあり、カメラマンが切り取っているのはその物語の一部なのである。そしてそのストーリーはグラントリップが始まる前から始まっていることもある。

×〈Canon EOS-1D X〉 追い続けて

2014年の最終戦アブダビGPは熱田にとってそんなグランプリだった。

アブダビGPで何を撮るか?—その熟考は熱田がアブダビへ出発する前の日本から始まっていた。なぜなら—、日本人としてただひとりF1に参戦していた小林可夢偉(こばやし・かむい)にとって、そのグランプリがF1ドライバーとして最後のレースになるかもしれないと噂されていたからだつた。

「だからアブダビGPでは、できるだけ可夢偉を撮ることにしていた。いつもはレーススタート前のスタートインググリッド上はF1マシンを間近から撮影できる数少ないチャンスなので、各グリッドに移動していろんなチームのマシンを接写する

2014年のF1最終戦、アブダビGPはナイトレースで開催された。人工光で浮かび上がったF1がとても美しく輝いていた。日本人唯一のF1ドライバー小林可夢偉選手は、性能が劣るマシンでもいつも最善を尽くしてレースを戦ってくれた。小林選手は「このレースがF1を戦う最後のレースになるかもしれないという気持ちで走りました」とレース後に語ってくれたが、もし本当にそうなつたら残念でしかたがない。

2014.11.23 F1世界選手権アブダビ大会
Canon EOS-1D X EF400mm f/2.8L IS II USM + EXTENDER EF2×III
1/64 F10 ISO1000 ホワイトバランス マニュアル
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 256GB



サンディスク
エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 256GB

けど、アブダビGPではほかのドライバーがいるグリッドへは行かず、可夢偉がいた16番グリッドから一步も動かなかつた」

スタート後も、熱田は可夢偉を追い続けた。アブダビGPはF1では珍しい日没間際にスタートが切られるトワイライトレース。スタートしてしばらくは薄暮の中を走る可夢偉を撮り、完全に太陽が沈んだ後は照明に輝く幻想的な可夢偉のF1マシンを800mmのレンズで追つた。なぜなら、舞台であるヤス・マリーナ・サーキットは、コース脇に独特のストライプ模様が施されており、その中で走る姿を撮りたかったからだ。もちろん——、狙っていたのは、可夢偉である。

「2014年の最終戦はハミルトンがタイトルを確定させたグランプリだったけど、私の中では可夢偉の最後の勇姿を収めることしか考えていなかつた。だからレース後マシンがピットレーンに帰ってきて、チャンピオンになったハミルトンではなく、たとえ最下位でチェック一撃を受けたとしても可夢偉を撮ると決めていた」

しかしストーリーは熱田の組み立てどおりには進まなかつた。可夢偉がマシントラブルのためレース終盤の42周目にリタイアしたのである。だ

が物語は続いた。レース後、表彰式の撮影を終えた熱田は可夢偉が所属するケータハム・チー

ムへ足を運ぶ。するとそこではチームスタッフが可夢偉を囲んで記念写真を撮ろうとしているのである。しかし、その場にはチームと契約している海外のフォトエージェンシーのカメラマンがいなかつたため、チームは熱田に写真の提供を依頼。熱田は喜んでそのデータをチームの広報へ送つた。

チャンスを逃さないために

「ストーリーが自分の思い通りに行くことなんてほとんどない。でも物語は常に続いている。そして思わぬ展開となることもある。だから新たに訪れるチャンスを逃してはならない。フィルムの時代は36枚ごとにフィルム交換しなければならなかつたし、デジタルになってからもしばらくはデータの書き込みスピードが遅くてチャンスのときにシャッターが切れないことが何度もあった。でも今は大容量で書き込みも高速なコンパクトフラッシュのおかげで撮り逃す心配はない。しかもサンディスクのコンパクトフラッシュカードでエラーが起きたことは一度もない。その信頼感こそが、カメラマンにとっては何よりも大切。だって、物語に再演はないから」

そう語る熱田は、新たなストーリーを求めて今年もF1を追い続ける。



熱田 譲 ●あつた まもる

1963年生まれ、三重県鈴鹿市出身。東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業。1985年ヴェガインターショナル入社。坪内隆直氏に師事し、2輪の世界GPを転戦。1991年よりフリーランスとして活動を開始。F1はじめとするモータースポーツや市販車の撮影を行う。これまでにF1関連の写真集は9冊発刊し、さまざまな雑誌にも作品を多数発表し続けている。

AJPS(日本スポーツプレス協会)会員
JRPA(日本レース写真家協会)会員
AIPS(国際スポーツプレス協会)会員

SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、
最大95MB/秒^{*1}の超高速データ転送。
究極のSDTMカード、サンディスク エクストリーム プロ シリーズ



**512GB、
UHSスピードクラス3^{*2}になって
新登場!**

最大
90 MB/秒
の書き込み速度
最大
95 MB/秒
の読み取り速度

サンディスク エクストリーム プロ
SDXCTM UHS-I カード 512GB

データ復旧ソフト「レスキュープロ デラックス」1年間利用特典付き



超高速性能・大容量 **Extreme Series** エクストリーム シリーズ



エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ
カード



エクストリーム プロ
SDカードシリーズ



エクストリーム プロ
microSD
カードシリーズ



エクストリーム プロ
SSD



エクストリーム プロ
USB3.0
フラッシュメモリー

サンディスクはプロカメラマンの93.8%^{*}から「安心のブランド」と評価されました。※2014年2月当社調べ(複数回答)。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/leader2014/>
サンディスクはフラッシュメモリーカード世界^{*}・国内^{**}シェアNo.1ブランドです。サンディスク 検索



BCN AWARD
メモリカード
部門
最優秀賞



2014年
メモリカード
部門

Gartner, April 2014: "Market Share: Flash Cards and USB Flash Drives, 2013" "BCNランクイック(2014年1月~12月), 2014年GPK Japan調べ(家電量販店販売実績集計メモリーカードメーカー数シェア) *1 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク
社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。*2 UHS-I: 4K動画やフルHD動画を最高に効率的に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラスを意味します。*3 詳細は当社Webにてご確認いただけます。
よっては、SDXCカード、microSDXCカードや、UHS-I/UHS-II規格に対応していない場合があります。詳細は各機器メーカーにお問い合わせください。3.SanDisk,SanDiskロゴ、SanDisk Extreme Pro, Extreme, Ultra, Compact Flash, 及びコンパクトフラッシュは、米国及び他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXC, microSDXCのマーク及びロゴはSD-3C, LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。

Facebookでサンディスクの最新情報をチェック!